

主題構成表

主題名 学校を愛する心

(三枝小6学年)

資料名「校舎は古いけれど」

<p>資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋子の話を聞き、うらやましく思う美保の気持ちを考えることで、学校の形だけの良さに目を向けることができる。 美保が、校舎は古いがみんなが長い間努力してきた「掃除」「花壇」という、学校の良さを別の視点からとらえていることに気づき、それが長期にわたって引き継がれていることの重さを改めて知った時の感激に共感することができる。 三枝小の校風を、美保の視点で考えることで今までの努力していた自分を発見し、そのことが校風づくりにつながっていることを実感することができる。 	<p>内容項目 4 - (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。 	<p>価値の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童にとって学校とは、家庭とともにもっとも身近な集団である。 学校の校風や誇りは、日常の学校生活において自分たちの生活を向上させようと、行事・さえぐさ活動・リーダーの役割を心を込めて取り組むことで作り上げてくるものである。 このような、学校で生活しているすべての人々の毎日の日常的な生活の地道な積み重ねが、学校の良さや誇りをつくりあげていることを感じさせたい。 最高学年として、学校への愛着をいっそう強め、学校生活を充実させることの大事さに目を向けさせていきたい。
<p>ねらい</p> <p>学校の校風は、今までの先輩たちが大切にしてきたことを、みんなで大事に守ることによって築かれてきていることに気づき、卒業までの4ヶ月、自分の役割を感じ、三枝小の一員であることに誇りをもって学校生活を送っていこうとする態度を育てる。</p>		
<p>展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋子の学校の話やうらやましく聞く美保の気持ちを押さえ、それは形だけの良さであることに気づかせる。 秋子とは、違った視点で学校の良さを考えている美保の気持ちに気づかせ、掃除やかだんなども学校の良さであることを押さえる。 行為のすばらしさだけでなく、それが長期にわたって引き継がれているところに重さがあることに気づいた美保に共感させ、今までやってきたことが、三枝小の校風づくりにつながっていることを引きだし、ねらいとする価値に迫る。 最高学年としての今までの自分を振り返ることで、自分の役割、三枝小の一員としての誇りを感じ、最高学年としての自覚を高める。 	<p>基本発問(中心発問)</p> <p>秋子の学校の話や聞く美保は、どんな気持ちだったろう。</p> <p>「いい学校」ってどんな学校だろうかと考えている美保は、どんなことを考えていたんだろう。</p> <p>美保が「いいこと教えてもらったわ」とお礼を言いましたが、どんなことに気づいたからでしょう。</p> <p>三枝小には、どんな校風がありますか。今まで、よりよい校風を作るためにどんな気持ちで、どんなことを頑張ってきましたか。</p>	